

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	平成29	年度	②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間）	4	年間 （1年未満は切上げ）	③事業の型 （AまたはBを記入）	B	型
④日本側拠点機関名（和文）	愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学							
⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）	美術学部・教授・柴崎幸次							
⑥日本側協力機関名（和文）	（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
豊田市和紙のふるさと								

⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと）	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 （内数）
拠点機関	1	7	2	0	0	10	0
協力機関・協力研究者	0	1	1	0	2	4	1
合計	1	8	3	0	2	14	1

⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院・リサーチスタッフ	中世ロシア史	ウズベキスタンとの共同研究業務
豊田市和紙のふるさと・館長	和紙	和紙に関する研究業務

⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を確保する方法
韓国・Dankook University・Assistant Professor	Korean Traditional Costume	当該研究者は、韓紙の復元を手掛けており、サマルカンド紙に関連するアジアの紙としての研究は課題実施に不可欠である。	当該研究者は韓国の研究者であるが、日本と時差が少なく距離も近いことから、頻繁にやり取りを行うことで一体的な協力体制を確保できる。

2. 経費

事業の型 B 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額 (単位:円)	備考	
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	384,215	
	外国旅費※1	2,717,710	
	謝金	918,009	
	備品・消耗品購入費	1,234,313	
	その他経費	741,159	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2		
	計	5,995,406	
業務委託手数料	599,540	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。	
合計	6,594,946		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

該当なし

③ 日本 側 の 旅 費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)		1,614		
	④ (単 位: 千 円) (B 型 の み) 本 事 業 者 の 旅 費 の 総 額	日本または相手国 →日本の渡航	1,281	左 記 の う ち、 第 三 国 所 属 の 相 手 国 側	日本または相手国 →日本の渡航
		日本又は相手国 →相手国の渡航		日本以外→日本の渡航	206
日本または相手国 →第三国の渡航			日本以外→日本以外の渡航		
	第三国→ 日本の渡航			第三国→ 日本の渡航	
	第三国→ 相手国の渡航			第三国→ 相手国の渡航	
	第三国→ 第三国の渡航			第三国→ 第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤ (B型のみ) 中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合 (交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
総額 (単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明	
136	中国、韓国の参加者の国際航空運賃(日本セミナー参加のため)	
⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨)		
全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
0	0	0

3. 共同研究・セミナー

事業の型		B 型						○			
①共同研究（適宜、行を加除すること。）			現在の年度に○を付けること→								
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目	2年目	3年目	A型のみ					
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目	5年目	実施年度に○を 付ける！	実施年度に○を 付ける！		
R 1	サマルカンド紙に関する調査	柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授	○	○	○						
R 2	中国紙に関する調査	柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授	○	○	○						
R 3	韓国紙に関する調査	柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授	○	○	○						
R 4	サマルカンドから伝播した洋紙文化の調査	柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授		○	○						
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）											
R 1	2019年4月：〔紙の分析調査〕日本国内において昨年度収集したサマルカンド紙サンプルの原料分析を行う。 4月～6月：〔試作〕愛知芸大和紙工房にて、サマルカンド紙試作実験を行う。 5月【共同研究】サマルカンド紙に関する調査（写本・精細な細密画の調査）、ウズベキスタン（タシケント、サマルカンド、ヒヴァ、プハラ）。古い紙の繊維データアップロードシステムの運用。原料分析用サンプル紙片を入手する。日本側は4名の研究者8日間派遣。 5月：〔紙の分析調査〕日本国内においてあらたに収集したサマルカンド紙サンプルの原料の分析を行う。 11月：【セミナーでの報告・展示開催】日本セミナー（愛知県立芸術大学）の実施。国際交流展の実施、講演・報告の実施（日本の和紙文化、サマルカンド紙調査報告、中国紙、韓国紙の報告、招待講演）、ウズベキスタンから8名、中国から3名、韓国から1名招聘。 10月～2020年2月：〔試作〕愛知芸大和紙工房にて、サマルカンド紙試作実験を行う。 2020年2月：【セミナー開催延期】ウズベクセミナーにて、最終報告の実施。日本から5名の派遣を予定していたが、コロナのウイルスの影響により開催を断念した。 2020年11月：【セミナー開催中止】ウズベキスタンにて最終報告セミナーを実施の予定であったが、コロナのウイルスの影響により開催を断念した。よって国内で可能な調査研究を継続した。 6月～2021年2月：〔紙の分析調査〕データアップロードシステムの更新と国内で調査可能な紙の解析画像データの入力を行った。2月は、紙の伝播の研究に関連し、9世紀の写本などの調査に注力した。 11月～2021年2月：〔紙の試作〕愛知芸大和紙工房にて、コットンによるサマルカンド紙試作実験を3回実施した。また、試作した紙サンプルのまとめを行った。 11月：〔紀要の執筆〕本研究のまとめとして、愛知県立芸術大学紀要に報告を執筆した。										
R 2	7月：【共同研究】大連民族大学（大連）を訪問し、多様な中国紙の文化研究の視点から西方の紙文化関連施設の視察・調査を行う。日本側は2名を北京および西方の都市に4日間派遣し、中国側研究者と研究を実施した。 7月～2020年2月：これまでの研究の成果を踏まえ、サマルカンド紙との関連や世界の紙の伝播について総括を行う。 6月～2021年2月：〔紙の分析調査〕中国紙に関して、新たな紙の解析画像データの入力を行った。										
R 3	11月：【共同研究】韓国の朝鮮王朝実録の複製本制作事例から、その制作工程を検証し、日本セミナーにおいて、韓紙の研究に関する報告を行う。 7月～2020年2月：これまでの研究の成果を踏まえ、サマルカンド紙との関連や世界の紙の伝播について総括と報告を行う。 6月～2021年2月：〔紙の分析調査〕韓国紙に関して、新たな紙の解析画像データの入力を行った。										
R 4	7月～2020年2月：これまでの研究の成果を踏まえ、サマルカンド紙との関連や世界の紙の伝播について総括と報告を行う。 6月～2021年2月：〔紙の分析調査〕西洋紙に関して、新たな紙の解析画像データの入力を行った。										

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）				
整理番号	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場名）	開催期間（〇年〇月〇日～〇年〇月〇日（〇日間））
S1	日本学術振興会研究拠点形成事業「国際セミナー 紙と芸術表現“ウズベキスタンのサマルカンド紙、イスラーム写本、ミニアチュールを知る”」日本セミナー	JSPS Core-to-Core Program / B.As a-Africa Science Platforms / International Seminar on Hand-Made Paper and Artist c Expression “Research into anc ent Samarkand paper, Islamic	日本	2019年11月
S2	日本学術振興会研究拠点形成事業国際セミナー 紙と芸術表現“ウズベキスタンのサマルカンド紙、イスラーム写本、ミニアチュールを知る”ウズベキスタン・タシケントセミナー ※セミナー開催中止	JSPS Core-to-Core Program / B.As a-Africa Science Platforms / International Seminar on Hand-Made Paper and Artist c Expression “Research into anc ent Samarkand paper, Islamic	ウズベキスタン	2020年2月
<p>セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）</p> <p>S1：本事業の研究課題「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究」に関する最終セミナー。 国際セミナーの開催、「紙と芸術表現“ウズベキスタンのサマルカンド紙、イスラーム写本、ミニアチュールを知る”」 2019年11月16日、日本にて本事業の国際セミナーを開催した。これまで2017年度にはウズベキスタン・タシケントのウズベキスタン芸術大学で、2018年度には中国・大連の大連民族大学でセミナーを行った。3回目となる今回は国際セミナーであり2017年から3年間取り組んできた本研究事業の最終報告として開催した。会場は愛知県立芸術大学及び、名古屋大学アジア法交流館にて実施した。 [セミナーの実施状況] 国際セミナーの内容は、ウズベキスタンのサマルカンド紙、イスラーム写本、ミニアチュールに関する調査報告を中心に、和紙、中国紙、韓紙、さらに西洋の紙の歴史をあらためて調査し、世界の紙の伝播地図を再創することを視野に研究を行うプロジェクトの報告を行った。セミナーは、3部構成であり、第1部は、ウズベキスタンと日本、中国、韓国の芸術大学の連携を中心に、この拠点形成事業全体の報告、第2部は、ウズベキスタンのサマルカンド紙、イスラーム写本、ミニアチュールを日本において紹介することを目的に、ウズベキスタンの研究者8名を招聘し講演を実施、第3部は招待講演として、ロシア国立エルミタージュ美術館のアダムワ・アデル氏による「ティムールのミニアチュール」、同館ミコライチェック・エレナ氏による、「エルミタージュ美術館作品の紙の調査」についての講演を実施した。参加者、研究・運営スタッフ含め150名+招聘者・通訳14名で、計164名であった。さらにセミナー運営、エクスカージョンなど、21名の大学院学生が協力し運営を行った。 [開催中の主な日程] 11月15日、愛知県立芸術大学訪問（研究者交流、文化材保存修復研究所・和紙工房見学、歓迎会） 16日、国際セミナーの実施（名古屋大学アジア法交流館アジアコミュニティフォーラム） 15日～19日、研究メンバーによる展示（名古屋大学アジア法交流館内） 17・18日、エクスカージョン（美濃和紙アート館、今井家住宅、越前紙の文化博物館、越前和紙手漉き工房、機械漉き工場など見学、計30名参加） 19日、名古屋城本丸御殿見学（16名参加） [会議、打ち合わせ等] ・ウズベキスタンでのセミナーと展覧会開催（令和2年3月予定）に関するミーティング ・科学アカデミー東洋学研究所とミニアチュールの図録発行の共同研究に関するミーティング ・今後の研究ビジョンについての意見交換など なお、本セミナーの概要については、下記WEBサイトにまとめている。さらに個々の講演については講演録として編集し今後発行の予定である。 https://labo.a-mz.com/paper/international-seminar.html</p>				
<p>③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7（7）参照のこと。）</p> <p>該当なし</p>				
<p>④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとつてのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4（1）①参照のこと。）</p> <p>該当なし</p>				

4 研究交流状況

事業の型 B 型							
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)							
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例 4(教授級以上1、大学院生3)
1 ウズベキスタン	1	3				4	
2 中国	1	1				2	
計	2	4	0	0	0	6	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例 4(教授級以上1、大学院生3)
1 ウズベキスタン	4	3	1			8	
2 中国		3				3	
3 韓国(第三国)		1				1	
計	4	7	1	0	0	12	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
3:日本側の第三国参加研究者(韓国)の日本側参加研究者との研究交流のため。							

③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								

④海外→日本の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名(和文)	ウズベキスタン
②拠点機関名(和文および英文)	
和文:ウズベキスタン芸術大学 英文:National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Behkzod	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	Head of International Relations Department, Senior teacher, Fazilat KODIROVA
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文:サマルカンド大学 英文:Samarkand State University	
和文:ウズベキスタン国際イスラムアカデミー 英文:The International Islamic Academy of Uzbekistan	
和文:ウズベキスタン科学アカデミー 英文:Uzbekistan Academy of Sciences	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	4	7	0	0	0	11	
協力機関・協力研究者	3	2	3	1	0	9	
合計	7	9	3	1	0	20	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)					※参考: 日本側研究交流経費	
負担した:○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし:× 当該年度実施なし:ー		支援機関名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)	¥5,995,406
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		該当なし						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×							
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×							
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-							
(5)相手国側研究者の研究経費	-							
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-							
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		0				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名 (和文)	中国
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：大連民族大学 英文：Dalian Nationalities University	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	Faculty of Design, Professor, MA Chun Dong
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	3	0	0	0	4	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	1	3	0	0	0	4	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：-	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)						※参考： 日本側研究交流経費		¥5,995,406
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)			
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	該当なし								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×								
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×								
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×								
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-								
(5)相手国側研究者の研究経費	-								
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-								
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		0					

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。